

うちの週末^{vol.2}

～気ままに子どもと森あそび♪～

こんにちは。御代田町在住のチェリーです。

桜の開花もうすぐ！みなさまはこの春いかがお過ごしですか？

我が家は、長男が小学校に上がり、生活のリズムが一変。「はやくー！」と私ばかり気が焦っていて、息子は相変わらずのペース。本人は急ぐ様子がないので、私はますます時計を見て焦ってしまいます。でも、小さなところで森の春を楽しんでおりますよー。長男を送りながら家の周りを歩いていると、キツツキが木を叩く音が響き渡り、小鳥のさえずりが聴こえてきて、つい足を止めてしまいます。恋のラブソングを歌う鳥たちの、なんだかソワソワした様子を春を感じています。

鳥といえば、我が家の郵便ポスト。毎年シジュウカラに苔を運び込まれて巣に使われそうになります。その運ぶ早さったら驚きスピードで、ある日夕方郵便物を確認しようとポストの蓋をあけると、たった半日たらずでポストの底が見えなくなるほど苔が！！そろそろかと用心しているものの、苔の山に手が触れてしまったときには、毎度ゾッとして腰を抜かしそうになります（笑）さすがにポストは困るので、食卓から見えるところに巣箱をかけてそちらにお引っ越ししてもらうのですが、しばらくはポストと巣箱のどちらにも苔を運び込もうとするので、私もポストからせっせと苔を取り出しイタチこっこです。

シジュウカラの巣作り・子育ての様子を3年連続で息子たちと観察したところ、息子たちの成長に合わせて、生き物の捉え方も変わってきました。1年目は、シジュウカラという鳥を知り、身近に感じた程度。2年目は、巣箱に出入りするシジュウカラを見つけたたびに、「来たー！」

「また来た！」と観察。虫をくわえてきた、あれはお父さんだ、こっちはお母さんだ。と、行動や姿に注目。3年目は、巣箱の掛け方から積極的
にアイデアを出し、春が来たら早く巣箱をかけてあげようと行動。「家の周りに鳥がいるんだ～」程度の認識から始まったシジュウカラの観察ですが、年を重ねるに連れて、シジュウカラが身近になってきているようです。

息子達を見ていると、自然と触れ合う時、繰り返しの経験が大切だなと感じています。最初は興味がないように見えても、小さな経験がつながり、子どもなりに自然との付き合い方を学んでいるようです。子ども時代の原体験が豊かであるほど、大人になってから

「守りたいと思う環境の自然度」が高いそうです。

御代田の環境を活かして、小さいうちに野山でいっぱい遊ばせてあげたいですね。

